ニホンザルとチンパンジーの母子関係の比較

伊谷純一郎（京都大学理学部）

野生ニホンザルを対象にして下記の3テーマについて研究を進め，その一方でチンパンジーおよびアフリカの遊牧民の子供の発育に関する資料の整理を進めた。

(1) ニホンザルのオスの社会的成長

屋久島西部林道沿いの4群を対象にして，オスの生活史をみなおすことを目的とした観察を続け，とくに社会的成長に達するまでの過程を追った。これは特定個体の長期にわたる追跡を開始するにあたっての予備的な調査で，発達段階の策定を目的としたものである。多少の個体差はあるが，発達段階は以下のように定めうる。最初の1年は全面的に，そして満3歳までは多少とも，母親やその他の血縁者に依存して生活する期間である。その後6歳までは独立に向けて成長してゆく過程である。4歳で交尾を始めるが性成熟に達したとはいえず，6歳でも体の大きさは成オスの半分に満たない。また社会的な成熟に達しているともいえない。この段階ではまだ出自集団に留まっているが，6歳を越したあたりから出自集団を離脱する。この離脱の時期には個体差がありもっと早い例もあるが，多くは性成熟への到達と関係があるように思われる。この第1回目の離脱後，ソリタリーとして生活することはまれで，ほとんどは近隣の集団の中に比較的スムーズに移入する。彼らが出自集団に戻るという例はほとんどない。彼らはこの第2の集団の中で徐々に成長をとげてゆき，およそ10歳で身体的にも社会的にも成熟の域に達する。そしてその前後に，第2回目の離脱，あるいは集団の中でより高い地位につくかのいずれかの道を選ぶ。前者の場合はソリタリーとして過ごし，交尾期には他の集団に接近し，群れの主だったオスとの対抗的な交渉を重ねるが，それは集団の乗っ取りとは必ずしも結びつかない。集団のオス，そのαオス，そしてソリタリーのそれぞれのアイデンティティがいかにして保たれており，かついかなる意味をもつのか，そしてそれと生い立ちとがどのような関係にあるのかを解析することが今後の重要な課題である。

(2) ニホンザルの子供の発育とアロマザー

4～6月に生まれた子供は，生後約1カ月で，母親以外のアロマザーによっても抱かれ運ばれるようになる。アロマザーになるのは子供の姉に当たる4歳のメスが最も多い。アルク集団では3頭の子供のうち2頭がその4歳の実姉にアロマザリングされている。生後1カ月頃ではアロマザーは実母から10m以上隔たることはなく，実母は子供を視野内に捉えながらも間断なく<クー>音を発し続ける。この聴覚的な絆は，生後6カ月に達してより長時間にわたって子供が母から離れるようになっても変りはない。アロマザーのおかげで身軽になった母についてとくに目立つのは樹上での採食行動である。一方アロマザーのほとんどは未経産のメスであるから，育児の練習効果ということも考えられるし，子供にとっては母以外の集団の成員との交わりを深める契機になろう。ただアロマザーとともにいる時間がより長いということは，母の順位の投影，末子優位の法則の成立条件を消去することにもつながり，この問題の分析は今後の課題であろう。子供は，まずアロマザー，そしてその他のシブリングといった血縁集団の中での位置づけが優先し，ついで同年者とのつながりを深めてゆくということになる。この同年集団がとくに顕著に認められるようになるのは交尾期に入ってアロマザーになる年齢の若いメスが初発情を迎える時期で，発情していないメスたちはαオスのまわりでコアをつくるが，その近くで同年集団が形成され託児所のような様相を呈する。伊谷が高崎山で観察したようなパターナル・ケアーは，屋久島においてはほとんど見られない。

(3) ニホンザルの石遊び

石遊びは，1979年に嵐山ではじめて記載され，ほぼ同じ時期に高崎山においても見られるようになった。

石遊びとは，小石を集めて，それらをかきまぜ，手で抱きかかえ，運び，その２つをとってすり合わせたり打ち合わせたりして音を出すなどの行動である。この行動は集団内で徐々に伝播していったいわゆるカルチュラル・ビヘヴィアであるが，新しい食物の獲得，芋洗いなどのカルチュアとは異なり生活技術とは全く関係がない点に特色がある。嵐山においては，最初の記録から８年を経た現在，集団の52％がこの行動を行なうようになっているが，他のカルチュラル・ビヘヴィアと異なり1978年当時すでに幼児期を脱していた個体には伝播しないという特性をもっている。石遊びは若年層に広く伝播したが，大きな個体差が認められ，石の扱いはさらに多様化の一途を辿りつつあり，メンタリティーやマニピュレーションの進化等の側面からしてもとくに注目すべき現象と考えられる。

(4) そ の 他

チンパンジーの遊びの資料とニホンザルの遊びと比較分析を進めた。ケニア北西部の遊牧民トゥルカナ族の子供の社会的発達と遊びについての資料を整理分析した。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

野生ニホンザルを対象にして下記の 3 テーマについて研究を進め,その一方でチンパンジーおよびアフリカの遊牧民の子供の発育に関する資料の整理を進めた。